

はとりクリニック 検査の結果 について

2004.4.23

今回の検査結果で、何らかの異常を指摘された方は、ご相談ください。また、検査の数値に異常のなかった場合でも、症状に変化があるときは受診を。この表を参考にして、結果をご覧ください。

検査項目	検査の説明
問診	いまの症状、過去の病歴、家族のかたの病歴をお教えください。治療の参考になります。
身体測定	身長・体重・体脂肪率を計り、体型を測定します。 BMI (肥満度指数) = $\frac{\text{体重kg}}{(\text{身長(m)} \times \text{身長(m)})}$ 正常値 (19.8~24.2) 標準体重 = $\text{身長(m)} \times \text{身長(m)} \times 22$ 体脂肪率：インピーダンス法、水中測定、超音波などの方法があります。 男性：25%以下 女性：30%以下 (クリニックではインピーダンス法)
視力	眼性疲労で急に視力が落ちた方、左右で視力差の大きい方は眼科受診をお勧めします。
聴力	オーディオメーターで難聴の有無を調べます。加齢と共に高音から聞こえにくくなります。異常のある時は耳鼻科受診を。
血圧	血圧は個人差があり健康状態、環境などでも変動します。高血圧の方は心臓病、腎臓病、動脈硬化、脳卒中などを合併しやすいので、規則正しい生活、塩分の取りすぎ、十分な睡眠、そして肥満に注意しましょう。
超音波検査	超音波による画像診断です。心臓・肝臓・胆嚢・腎臓などの形態の異常、心拍種量など機能測定カラードプラーを用いて異常逆流、狭窄などを調べます。 頸動脈エコーでは、総頸動脈内頸動脈の血管壁の肥厚、血栓を観察します。 甲状腺エコーでは充実性腫瘍、嚢胞など甲状腺の器質的变化を見ることができます。
眼底検査	眼底にある動脈・静脈の状態を調べ、糖尿病・高血圧・動脈硬化の変化をみます。
肺機能検査	呼吸機能の評価のため、肺活量や1秒率、1秒量で肺の拘束障害、換気障害を調べます。(肺気腫、喘息など慢性閉塞性肺疾患) さらにスパイロメーターで肺活量や呼出量(1秒間に吐き出される呼気量)を測定し呼吸の機能を見る検査です。(肺気腫・気管支炎・肺繊維症・気管支喘息・肺梗塞)
経皮酸素分圧測定	動脈穿刺せずに、動脈血流の酸素分圧を調べます。
便潜血反応	消化管で出血すると便の中に血液が混入されて排泄されます。わずかな赤血球成分を検出し、出血の有無を知ることができます。 (陽性にしやすいものは、消化管悪性腫瘍、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎、消化性潰瘍、痔など)
尿検査	尿糖 : 糖尿病などで、血糖が170を超えると尿中に糖がもれてきます。 尿蛋白 : 高血圧・糖尿病・腎臓に障害があると蛋白尿がみられるようになります。 尿潜血 : 腎臓、尿管、膀胱、尿道の炎症や尿路結石・腫瘍などででてきます。 ケトン体 : 体の中で糖の利用が阻害されると、脂肪の代謝が促進されケトン体の成分が増加し、糖尿病・激しい下痢・嘔吐・高熱などで出てきます。
心電図、トレッドミル負荷心電図	不整脈・虚血性変化・心臓肥大・心筋症の異常などがわかり、心臓の様々な変化を知る基本的な検査です。必要があるときは、トレッドミルなどの負荷心電図を行います。
24時間心電図	不整脈、狭心症によると思われる症状がある時に、睡眠中、階段昇降、ランニング、喫煙、アルコールの心臓に負荷がかかったときにでる変化を、入院せずに無拘束で調べることができます。
胸部X-P	肺の結核・腫瘍の有無、気管支拡張や、縦隔のリンパ節、心陰影、心臓肥大など形を調べます。
腹部X-P	腸管ガスの状態や肝臓・腎臓などのおおよその大きさと形、結石の有無、腹水の有無、腰椎・骨盤などの骨の状態がわかります。

胃透視検査		バリウムを飲んで食道、胃、十二指腸までの上部消化管を調べます。検査結果で、疑問陰影、異常があればさらに内視鏡検査（胃カメラ）を行う場合もあります。検査終了時は、水分摂取を充分にとって、必要があれば下剤を使用してください。
内視鏡検査		上部消化管検査：食道、胃、十二指腸までを電子内視鏡で見る検査です。癌などの悪性腫瘍が疑われるときは、胃炎、胃・十二指腸潰瘍はX線検査に比べて正確に診断することができます。 大腸内視鏡検査：大腸全体を観察します。大腸がん、大腸ポリープなどの診断には欠かせない検査です。
喀痰細胞診		痰を顕微鏡で検査し癌などの細胞が出ているか調べます。
血	赤血球	貧血、多血症をみます。
	血色素量 ヘマトクリット	貧血の有無、程度、原因を調べます。 貧血になると色が悪くなります。血色素が減るためです。
液	白血球	炎症やウイルス・細菌感染が起きていないかを調べます。
	白血球像	好中球・リンパ球・好酸球などの割合をみます。アレルギーでは好酸球が増加します。
	血小板	出血したときに血を止める働きがあります。多いときは感染症など少ないときは肝障害・脾臓機能亢進・出血傾向を考えます。
	血沈	病気を発見する手掛かりとなります。 炎症や感染症があると亢進します。
尿酸		高値では通風や腎臓結石の原因になります。プリン体を多く含む食品やアルコールなど飲み過ぎ食べ過ぎに注意。
脂	総コレステロール	血液中のコレステロールを調べます。高コレステロールが続くと動脈硬化や心臓病の原因にもなります。食事との関連が強くカロリーの取りすぎに注意しましょう。
	中性脂肪	増えすぎると動脈硬化や肥満の原因になります。カロリーの取りすぎに注意しましょう。
肪	HDLコレステロール	善玉コレステロールと言われ、この値が高いと動脈硬化を予防します。逆に低い場合は動脈硬化を促進させます。
	LDLコレステロール	悪玉コレステロールと言われ、肝臓から血管へコレステロールを運ぶ働きをし、動脈硬化を促進させます
肝	GOT	肝臓や心臓に多く含まれる酵素で肝臓や心臓の組織が壊れると血液中に出てきます。
	GPT	肝臓に多く含まれる酵素で、異常値の場合は肝障害を疑います。 急性肝炎・慢性肝炎・アルコール肝炎・脂肪肝・肝癌・劇症肝炎
	-GTP	肝臓・胆嚢系の病気を調べるもので、特にアルコールには敏感でアルコール肝炎などで上昇します。
臓	ZTT TTT	血清中の蛋白質の性質を調べる検査で、肝臓の障害の程度がわかります。
	ALP	肝機能や黄疸の程度を調べます。
	総ビリルビン	肝臓や胆管などの障害を調べます。肝機能障害・胆石・黄疸があると高値となります。
	LDH 総蛋白	肝臓病・心臓病・血液の病気で高値となります。 栄養状態・肝臓・腎臓の機能を調べます。
糖	尿糖	糖尿病の発見の手掛かりとなる検査です。
	血糖	糖尿病の発見の手掛かりとなる検査です。血糖値は食事の影響を受けるので、空腹時で検査を受

尿病	Hb A1c フルクトサミン	けるのが望ましいです。 過去2～3カ月の血糖の状態をみます。 過去1～2週間前の血糖の状態をみます。
アミラーゼ		膵臓から分泌される酵素で膵臓に障害があると血液中や尿中に出てきます。
甲状腺	TSH freeT3 freeT4 サイロイドテスト、マイクロゾームテスト	甲状腺刺激ホルモンで甲状腺機能亢進症では低く、甲状腺機能低下症では高値を示します。 甲状腺ホルモンで甲状腺機能亢進症では高値を示し、甲状腺機能低下症では低値となります。
CRP		体の中に炎症があると値が高くなります。
RA		リュウマチ、関節炎、肝炎などで(+)以上となります。
CPK		心筋梗塞の早期診断につかいます。脳・骨格筋・心筋に多く存在し脳疾患・骨格筋疾患・心疾患の時上昇します。
電解質		体の中にはいろいろな電解質があり、バランスよく調節されています。Na(ナトリウム)・K(カリウム)・Cl(クロール)・Ca(カルシウム)・P(リン)など Na・K・Clは腎臓病・副腎の病気・嘔吐・下痢・利尿剤・消耗性疾患などで異常になりやすく、Ca・PはビタミンDの異常や骨の病気、腎臓病、悪性腫瘍などで変化します。
腎臓	尿素窒素 クレアチニン クレアチニン・クリアランス	血清尿素窒素は体の中で蛋白質が利用された後の老廃物で腎臓から尿中に排泄されます。 血清クレアチニンは筋肉の中でクレアチニンが利用された後の老廃物で腎臓から尿中に排泄されます。 腎機能をさらに詳しく見る検査です。1日に尿中に排泄されたクレアチニン量と血清クレアチニンを比較します。 正常値(男性：85～150 $\mu\text{mol}/\text{day}$ ・ 女性：80～110 $\mu\text{mol}/\text{day}$)
IgE (免疫グロブリン)		IgEは花粉症、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹などの病気に関連を持つ抗体です。 IgE総量が高い病気：気管支喘息などのアレルギー疾患、寄生虫感染など RST法 : 血液中の総IgE濃度を測定します。 RAST法 : アレルギーの原因物質(ダニ、牛乳、卵)ごとに血液からIgE抗体ができてきているか調べます。
<p>一口メモ</p> <p>赤血球は骨髄で造られた後、肺からの酸素と結びついて体の細胞に運ばれ必要なくなった二酸化炭素を運び出します。その中でもヘモグロビンという色素が酸素や二酸化炭素を運ぶ働きをしています。ヘモグロビンが減少すると、酸素の供給力が低下して酸欠状態となり貧血になります。</p>		